

京葉人材育成会発足式での挨拶

京葉人材育成会の中村でございます。

本日は、皆様、ご多用中のところ、発足式にご出席いただき、誠に有難うございます。経済産業省の吉村一元課長には記念講演をお引き受けいただきました。市原市の小出譲治市長、千葉県の商工労働部秋山良一次長には、ご来賓としてご挨拶を賜ります。お忙しい中、誠に有難うございます。

最初に、京葉人材育成会の発足経緯を説明させていただきます。

2005年、経済産業省は「産学連携中核人材育成事業」を提案し、65件のプロジェクトが応募しました。

化学コンビナート関係では、岡山県の山陽人材育成会の「コンビナート人材育成事業」と、千葉県の千葉県産業振興センターによる「京葉臨海コンビナート中核人材育成事業」の2件のプロジェクトが採択されました。

山陽人材育成会は昭和21年にクラレの大原總一郎氏が設立した山陽技術振興会のもとで水島コンビナートの企業連合によってつくられ運営されております。

当時、京葉コンビナート地区には山陽技術振興会のような企業連合組織がなく、千葉県産業振興センターが千葉県商工労働部の支援の下に、2008年京葉臨海コンビナート人材育成事業を開始しました。

しかし、コンビナート人材育成教育は、本来、企業連合によって実施するべきと考えております。

2018年より、京葉コンビナート各社の協議会である17社会を中心に、企業連合による人材育成教育について協議を重ね、千葉県商工労働部、千葉県産業振興センターのご了解をいただき、2021年12月7日に、一般社団法人「京葉人材育成会」が設立されました。

幹事会社は、京葉コンビナートの中核企業である出光興産、住友化学、丸善石油化学、三井化学の4社にお引き受けいただき、京葉コンビナートの会員企業からなる企業連合として「京葉人材育成会」が発足しました。

京葉人材育成会は、本年3月7日に、千葉県産業振興センターより、臨海コンビナート人材育成事業を正式に引き継ぎました。事務所は、市原市のご支援により、五井駅前の五井会館に開設しました。4月26日に最初の講座を開き、順調にスタートしました。

京葉人材育成会の講座概要は、「2023年度京葉人材育成講座」開設講座に記載しております。各講座には、京葉コンビナート各社はもとより、京浜コンビナート、鹿島コンビナート、さらには四日市コンビナート、新潟県などからも参加

申し込みをいただいております。

次に、京葉人材育成会をつくった私どもの決意を述べさせていただきます。

私どもの決意は三つあります。

1. 「自立基盤の確立」
2. 「カリキュラムの充実」
3. 「地域社会との連携」

一つ目は、教育事業としての自立基盤の確立です。

教育事業は開始した以上、社会に対する大きな責任があります。人材育成教育は、継続してこそ力を発揮できます。

ここにお集まりいただいた皆様と一緒に、一日も早く、京葉人材育成会が自立できる基盤をつくり上げていきます。人材育成事業は、皆様に受講していただ
いてこそ、成り立っていくことができます。

まずは、500人の受講者、そして1000名の受講者を目指していきます。1000名になれば、山陽人材育成会と同規模の人材育成教育になります。

皆様には、これまで以上に、温かいご支援をお願いいたします。

二つ目は、カリキュラムの充実です。

コンビナート各社からは、安全基盤教育や関係会社教育など、切実なご要望をいただいております。

京葉人材育成会は、千葉県産業センターから受け継いだ講座数を約2倍にします。今年度は、HAZOP初級、HAZOPリーダーコース、物質安全の基礎、技術者倫理、関係会社トップ層教育の各講座を開設いたします。さらに、設備腐食、設備保全、プロセスセイフティ、サイバーセキュリティの講座の開設を予定しております。

私は、技術版MBAといわれる社会人大学院MOT (Management of Technology)の教員ですが、MOTの最も重要な理念は、スタンフォード大学のWilliam Miller教授が唱えた『技術は実用化され、社会の役に立って、初めて評価の対象になる』です。人材育成教育は、製造現場で力を発揮でき、各企業のお役に立ってこそ、存在意義があります。

京葉人材育成会のカリキュラムのキーワードは、①現場で活かせる知識、②現場で使える技量、③現場で活かせる感性です。

一方、現場で働く一人一人の教育とともに、トップ層、管理者層教育も充実していきます。

安全の要は、経営トップからライン管理者に至る「Felt Leadership」です。

「Felt Leadership」はデュポン社の行動規範ですが、『経営幹部・ライン管理者の「感じてもらえる指導力 (Felt Leadership)」が発揮されなければ、誇れ

るような優良安全は達成されない。』、すなわち、経営幹部、管理者が、自ら、率先垂範して行動することが安全の要です。

三つ目は、地域社会との連携です。千葉県、市原市、袖ヶ浦市との連携です。化学産業を取り巻く環境は大きく変わってきております。

製造現場からベテランが去り、設備が老朽化しています。また、コモディティからスペシャリティへの製品転換が必須になってきております。

そして「カーボンニュートラル」などの社会環境の変化への対応があります。

カーボンニュートラルとは、石油・化学産業にとって「石油や天然ガスを出発原料とするこれまでの事業構造からの転換」を意味しております。

今、千葉県、市原市、袖ヶ浦市では、これらの変化に対応する新たなプロジェクトが計画・推進されております。京葉人材育成会は、行政とコンビナート各社とをつなぐ『プラットホーム』の役割を果たすことによって、地域社会に貢献していきたいと考えております。

技術開発は、各社に共通する基盤技術と各社の独自技術が相まって可能になります。安全は、各社に共通する重要な基盤技術です。コンビナート各企業と協力して、安全に関する共通基盤技術を、一緒にまとめていくことも、京葉人材育成会の重要な役割と考えております。

最後に、京葉コンビナートは、日本で一番大きなコンビナートです。

京葉人材育成会は、コンビナート各社の事業経営の基盤となる人材の育成に努め、将来は、日本の石油・化学コンビナートの教育センターを目指していきます。

皆様の一層のご指導ご鞭撻をお願いして、私の挨拶とさせていただきます。

京葉人材育成会 代表理事・会長 中村昌允